

1 参加施設

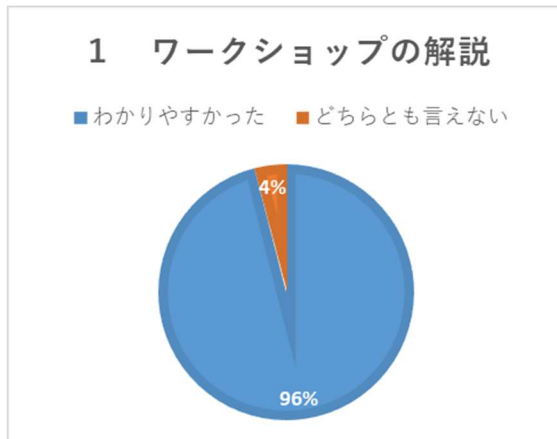
会場参加：3施設5名、リモート参加：28施設28名

2 回収（回収率）

25名/33名（約75%）

3 結果概要

（1）本ワークショップの解説（全般）：わかりやすい（24）、わかりにくい（1）



（2）避難の目安

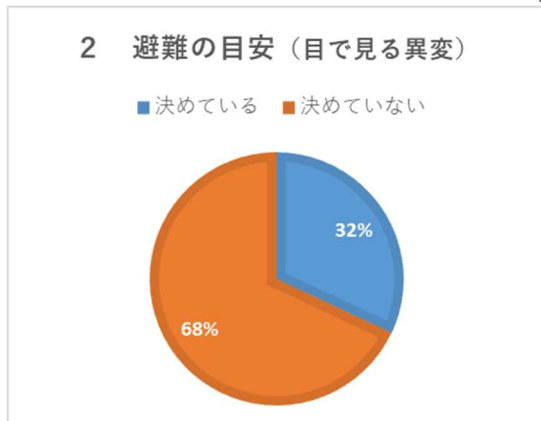
①情報系：決めている（19）、決めていない（6）⇒ 3/4が決めている。

※決めている施設の約半分（9施設）の施設：避難準備情報（避難準備・高齢者等避難開始）

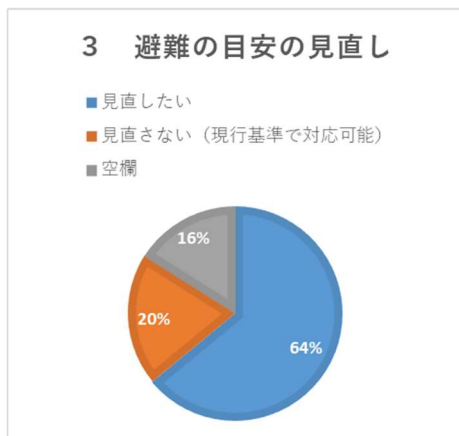


②目で見える異変：決めている（8）、決めていない（17）⇒ ※2/3が決めていない。

※決めている施設の目安（重複回答あり）：水位情報（6）、ライブカメラ（5）



- (3) 本ワークショップを踏まえた見直しについて (=「目で見ると異変」も目安に加える) 見直したい (16)、見直さない (従来基準で対応可能) (5)、空欄 (4)
 ⇒ 約 2/3 が見直したい、※「見直したい」とした施設の約 5 割：河川の水位情報



- (4) 専門家に相談してみたいこと (自由記載)

内容 (原文のまま)
マニュアルの見直し
水害時の避難 (セカンドベスト) について、選定方法等
避難場所のベスト・セカンドベストをどこにすればよいのか相談したい
施設への影響の有無を踏まえた職員招集等の判断のタイミングが難しい。逃せば招集できないし、早すぎれば無駄足となることから、招集する職員を管理職か、近隣職員に限定することとしている。日野川では、情報の細分化 (50m、100mごとの危険度等) を目指されるとのことなので、より身近な危険性を判断できると期待している。水位の変化を読み取る以外に何か判断基準がないでしょうか。行政の避難情報は、施設内の避難基準には使えない。
通所リハビリテーション利用者は、どのタイミングで帰宅すれば良いのか？また、帰宅させるのが良いのか。及び送迎の途中で施設の車も水没するのでは？
高齢者施設での避難方法、また地域や地域住民、行政との関係性
施設からの避難の仕方の具体例、また、最も注意すべきことなど
大きな河川が近くにある施設ですので、実際の水位が何mになれば避難開始がよいのか聞いてみたい。専門家の方に来ていただける機会があるとありがたい。
防災マップ上では土砂、洪水、津波の危険区域に含まれていませんが、今回の研修のように昨今のゲリラ豪雨や地震等による災害のように予測のつかない事態もあるので、客観的に専門の目で見て頂きたい思いはあります。

- (5) その他の意見、質問 (自由意見)

内容 (原文のまま)
とてもわかりやすく説明いただいた。
2週間前に作成しました河川洪水時の避難確保計画を再確認することが出来ました。このたびの研修の内容も参考にさせていただきます。ありがとうございました。
高齢者施設で100人弱の入所者を避難させるのに施設内の垂直非難を考えているが、他の避難所 (体育館等) への搬送は現実的に可能なのか。
豪雨災害の具体例と鳥取市河川の状況も交えた説明で大変分かり易かった。垂直避難を想定し、避難開始のタイミングは警戒レベル 4 としているが施設周囲の状況の変化も判断基準に加えたい。
とても分かりやすい内容で、予め、自施設で、災害の程度によって避難方法を徹底する事で、速やかな避難、人命救助につながる事、また、災害は急に大きく襲ってくるので細かい事でもきちんともしにも備えて決めておかないといけないと感じた。
鳥取県の方の声が聞き取りにくかった。
続編もお願いします。
文章だけでなく今回のような研修により参考になる情報をご教授頂ければありがたいです。